

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572000562
法人名	有限会社すいせん
事業所名	グループホームすいせん川南
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1 (電話) 0983-47-0234
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22年 3月 25日

【情報提供票より】(22年2月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 17日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 5人, 非常勤 15人, 常勤換算 14人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄筋平屋 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	10,800 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり 1,050 円		

(4)利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	7名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	70歳	最高	99歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川南病院 いずみ歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、遠くに尾鈴山が見え、近隣は新しいアパートが建ち並ぶ新興住宅街の中心にある。「1.利用者様に寄り添いながら、ゆったりと穏やかに過ごしていただきます。2.その人らしい居心地の良い環境の中で自信や生きがいを取り戻して頂けるよう支援します。3.笑顔の絶えないグループホームの実現を目指します。」と独自の理念につくりかえて、雄大な自然と広い芝生の庭園や畑の中でその人らしい生き方をさせたいという遠くの運営者の想いを生かした取り組みがなされている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念について、具体的に取り組みやすいものにと、職員全体で話し合いがなされ、独自の理念につくりかえられていた。また月に1回の介護計画の見直しとされその人らしい暮らしを続けるケアマネジメントが行なわれるなど、改善の取り組みが行なわれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	スタッフ全員で自己評価にとり組み、外部評価の意義についての理解も深められている。職員が前向きに理念の実践にむけて取りくみ事業所の質の確保を継続するためにも運営者の積極的な取り組みを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3か月に1回、ホームのリビングで行なわれている。メンバーは職員・利用者・家族・民生委員・市町村担当者・地域包括支援センター職員等で、評価結果や取り組みについて報告したり勉強会が行なわれている。運営推進会議を通して地域の理解や支援を得る為に運営者の参加を望みたい。また、2か月毎の定期的な開催になり、さらに充実するよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会の時には積極的に話かけて日常の様子を伝えている。2か月に1回はホーム便りも発行されていて、金銭出納簿の記入もなされている。玄関に意見箱が置いてあり内容についての話し合いがある。また運営推進会議や家族会で意見を出せるように働きかけをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月地区で行われる「地域ふれあい事業」に参加し地元の人々との交流がある。今後、自治会にも加入してホームの行事や災害時の訓練の協力を依頼したり等、地域との連携を深めてほしい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域の中でその人らしく暮らし続けるために、スタッフ全員で見直しを行い現実可能な理念がつくりあげられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や月1回の職員会議の中で理念を掘り下げた、具体的な話し合いがなされ日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月地区で行われている「地域ふれあい事業」に参加し地元の人びととの交流が図られている。		自治会等にも参加し、ホームの行事の参加や災害時の訓練の協力を依頼したり等、地域との交流を深められるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義についてスタッフ全員で自己評価にとりくみ昨年度の結果の改善も行われている。	○	職員が前向きに取り組む為に、遠方にある運営者に年1回の評価結果を報告し事業所の質の確保に活かしてほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回開かれており、地区の役員、行政の積極的な関わりがあり勉強会や意見交換が行なわれている。	○	年に1回は、運営者も含めた運営推進会議の開催を期待したい。また、2か月毎の定期的な開催になり、さらに運営推進会議の充実を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問をうけ入居者との話し合いがあり、毎月利用者の状況報告がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	病院受診に付き添って病状の把握をお願いしている。家族の訪問時には声をかけて、状況報告がなされ、2か月に1回ホーム便りが発行されている。金銭管理についても出納簿に記入され領収書の確認がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されている。苦情処理簿に記入がされ、話し合いがもたれて運営にいかされている。また運営推進会議や家族会議を活用し意見交換がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に各ユニットの職員は固定化されており、新しく夜勤にはいるときには研修が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院外研修の内容が公開され、希望を募って職員の参加を勧めている。研修参加報告書はあるが、報告がされていない。	○	職員各自に応じた段階的・計画的な学びの機会の確保の為に、年間計画の立案を期待したい。また研修を受けたあとのミーティングや報告の機会をもって非常勤を含めた全職員の質の向上に努めてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内で他のグループホームと運営推進会議を通じた交流会や勉強会がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家を訪問し馴染みの関係を作ったり、見学やお試しをして本人が混乱を招かない工夫がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に入居者のそれぞれの得意な事をしてもらえるよう工夫をしている。また人生の先輩として悩みを聞いてもらったりして、感謝の気持ちを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で入居者の思いが汲み取れるように理念に添った関わりがされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように、本人家族の要望を大切にするために職員全体で検討会を行ない、介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回の評価を受けて改善され月1回の見直しがされている。日ごろの関わりの中で本人の気持ちや思いを把握し、職員全体で、話し合いモニタリングが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者家族の状況に応じ、通院や特別な外出対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者と家族が希望するかかりつけ医に受診している。受診時は職員や家族が付き添っている。受診時は情報提供表を用いて、連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化に備え、日ごろから本人の状況を報告して家族や主治医と相談し方針が共有できるようにしている。		利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、急変したり重症化した場合の具体的な対応についての思いを共有できるような取り組みをさらにすすめてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人格を尊重した言葉かけや対応がなされている。個人情報の記録についても、他人の目にふれないように保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の流れは決まっているが、体調や気持ちに応じた関わりがなされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきをしたり、調理、食事の準備や片付け等みんなで楽しめる工夫がなされている。また職員も一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員のローテーションにあわせて入浴日が決まっている。いろいろ工夫をして入浴時にゆっくりと利用者の気持ちが開ける関わりが、されている。		できれば一人一人の希望やタイミングにあわせて入浴が楽しめる体制づくりを期待したい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力が発揮できるような場面作りがされていて、感謝の言葉がかけられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の介護度がまちまちのため一人一人の希望にそった支援が難しいが、出来るだけ希望があるときは支援をおこなうようにしている。		気分転換や生活の活性化のためにも天気の良い日は散歩や外気浴など日常的な取り組みになるよう工夫してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける事の弊害は充分理解しており、一人一人に目をはなさないケアが行なわれている。日中の玄関の鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回運営推進委員の方や区長さんに参加してもらい消防署の避難訓練を行っている。水や食糧等の備蓄はされていない。	○	地震等の災害に備えて食料・飲料水・非常用備品等の準備について検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状態に合わせて、量や形態(粥・キザミ・ミキサー・とろみ食等)の工夫がされている。食事や水分量の記録がある。栄養管理の必要な利用者に関しては栄養士の助言がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節飾りつけがあり、落ち着いた雰囲気できつろげる空間がある。換気も行き届き採光や室温調整もなされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある物が持ち込まれ、その人の思い出とともに居心地よく過ごせるように配慮されている。		